

受理番号及び 受理年月日	所 管	件 名 及 び 要 旨	提 出 者
23 年－ 11 (23. 9.14)	福祉保健	<p>ポリオ不活化ワクチンの早急な導入を求める意見書の提出について</p> <p>▶陳情理由 日本では野生株による急性灰白髄炎（ポリオ）発症例は、1980 年以降報告がない。 しかし現在、年に数人、生ワクチンが原因のポリオ患者が出ている。2010 年 2 月には、生ワクチンからの二次感染による患者発生が報じられていた。生ワクチン投与を続ける限り、100 万人に 2～4 人のポリオ患者が発生すると WHO も警告している。また何より危険なのは、人体内で、変性して強毒化したポリオウイルスから二次感染や三次感染、つまりポリオ再流行を引き起こしかねないことである。国内でも免疫獲得率の低い世代が親になって、我が子からの感染が懸念される。 ポリオワクチンを生ワクチンから不活化ワクチンに切り替えれば、被害は完全に防げる。先進国のほとんどが不活化ワクチンに切り替え、安全と効果が実証されており、日本は遅れている。 厚生労働省はこの 5 月 26 日、不活化ワクチンを早ければ来年度に導入する見通しを示した。このことは大きな前進であるが、「来年度」を待つことなく、早急に導入することなど、国に意見書を提出すること。</p> <p>▶陳情事項 以下の点について国に意見書を提出すること。 1、予防接種におけるポリオ不活化ワクチンは、来年度を待つ ことなく早急に導入すること。 1、ポリオ不活化ワクチンの生産体制が整うまで、緊急輸入す ること。</p>	新日本婦人の会鳥取県本部 会長 山内 淳子 （鳥取市田島 454－4）